

～我がジャズ My JAZZ

ジャズという音楽が成立して100年が経過しました。

その歴史は多様な音楽スタイルと多彩な表現方法を伴っていて、これがジャズだという納得するジャズ全体の定義のようなものは存在していません。

ただジャズに欠かせないもの、それはインプロヴィゼーション(即興演奏)なのです。不可解な音楽に魅力を感じ、そして憑りつかれ早や半世紀が過ぎました。

歌は語れ 楽器は歌え！ 一瞬一瞬のインスピレーションで音に乗せ表現する。それがジャズなのです。

ジャズは人生そのもので、大きさに言えば演奏する人の生きざまが音になって現れます。楽しいとき、嬉しいとき、悲しいとき、その時の気分で音楽が変わります。

父親がハワイアンバンドを結成してスチールギターを演奏していたせい、生まれた時から家の中に音があふれていました。家のいたるところに楽器が散乱して楽器をおもちゃにして幼年期を過ごしました。

それから何年も過ぎたある日、友人が廃墟となったダンスホールに私を誘い、中に入ってみると真新しい真っ赤なドラムセットが置いてあり、友人は学生服の内ポケットからスティックを取り出しドラムを演奏して見せたのです。その音はホールに鳴り響き、今までにないほど友人がかっこよく見えたのです。一瞬の息づくような感動と衝撃は今でも忘れることはできません。

これからの人生を決定づける運命的なドラムとの出会いです。

ドラムを始めて50年、私は基礎練習と苦手なところを何度も何度も繰り返し毎日数時間練習しています。練習は大変辛いことですが、一歩ずつ階段を上るように本気の継続をして練習する以外にうまくなる道はない

のです。一年後の上達している自分を想像し汗を流すことが上達の早道です。練習した結果は必ず報われずし、練習をさぼれば残酷に跳ね返ってきます。

そして50年間常に頭に置いてきたことは、高度な技術を身に着けることではなく、基本をしっかり身につけることにより、きれいな音、正確な音符、そしてそれに伴いきっちりしたことをきっちり演奏できるようになるのです。

そしていざ本番!! 言葉で交わす会話のように楽器が歌いお喋りし始めます。練習の苦しさや辛さなど忘れてしまう瞬間です。この一瞬の喜びを最大に受け止めるために毎日練習を積み重ねています。

ふと昔を思い出します。ドラムを上手に叩く! それが演奏だと! 音楽だと! 思っていたのです。ドラムを上手に叩くことと音楽になる演奏をすることは違うということに気が付いたのです。それは演奏のテクニックの山に登るのではなく、音楽の山を目指すことです。そのためには、たくさんの音楽を聴いてジャズとは何か? ジャズの本質を見極め、音楽力をつけることが大切だと思います。



(柳井市 Live Village)

人生～ Life

記：久原 朗揮



ドラマーの使命はカッコイイ曲でもない、見せつけるドラムソロでもない、自分を目立たせることではないのです。大切なことは、一緒に演奏しているミュージシャンの気持ちを読んでどれだけ気持ちよくプレイさせることができるかということです。また後ろからメンバーの手綱を操作したりムチで引っぱたくこともドラマーの役割です。

それがわかると、もっとスイングしてくるのです。スイングすることがドラマーの命です。

私にとってのジャズとは「愛」です。ジャズは今を生きるそのものを表現する音楽です。一緒に演奏しているメンバーの誰かに刺激され反応し自分のイマジネーションを広げその場で音楽を作っていく、即興のアドリブ、とてもスリルがあって楽しく面白い。その時々のお客さんの反応が良ければ演奏がどんどんエスカレートしていきます。

ミュージシャンはお客さんに心から演奏を楽しんでもらい、明日も頑張ろうと明日の活力にしてください。それが最高の喜びです。「楽しかった」「良かった」「感動した」と言われると感激です。三位一体の愛なのです。



親子で楽しむジャズコンサート
(スターピアくだまつ)

現在コロナ禍で音楽界も大変な状態に進む中、私は多くの人に今を生きる喜びを味わってほしいと思います。感動や感激の場面に少しでも多くふれて、その時の一瞬一瞬を輝かせて生きてほしいのです。

ドラムを始めて50年、ようやく音楽の入り口に立った私ですが、音楽を通して多くの人とふれあい感動を共有していきたいと思います。

昨年から3か月間のアメリカ生活で91歳の現役ジャズドラマー ジミー・コブさんとお話をする機会がありました。「人生にはいろいろなことがあるけれども、生きていることが楽しいことなのだ」と。「人生はありがとうと感謝だ」とも。

そしてジミーさんから「You Can Do It!!」と背中を押していただきました。

ジミーさんの歳になるまであと数十年!! まだまだ頑張ります。



アメリカ・ジャズクラブ
「ビレッジバンガード」前



ドラマー
ジミー・コブさんと
(ジャズクラブ
「キーストンコーナー」)

Profile

音楽家・ジャズドラマー

久原 朗揮 (くはら よしあき)



光市在住。ジャズドラマー日野元彦氏に師事。東京より多くのミュージシャンを招き共演及びツアーに同行、精力的に活動している。

- 光市文化振興財団主催「アラ還フェスティバル」実行委員長 (8年前から毎年開催)
- 「親子で楽しむジャズコンサート」主催者 (5年前から毎年開催)